

オホーツク海宗谷暖流情報

(R7(2025)年7月上旬)

R7(2025)年7月11日

中央水産試験場資源管理部

(担当: 海洋環境G 宮園・品田)

- 7月上旬現在, 宗谷暖流の勢力は例年並みですが(図1), 今後北寄りの風が続くと宗谷暖流は弱化する可能性があります。本年の6月上旬の広域分布調査では麻痺性貝毒プランクトンAtが沖合に最大10細胞/Lが確認され(図2), ほとんど出現していません。
- 宗谷暖流の勢力については, 適宜「オホーツク海宗谷暖流情報」として発信予定です。
- 次回の広域分布調査は7月下旬を予定しています。

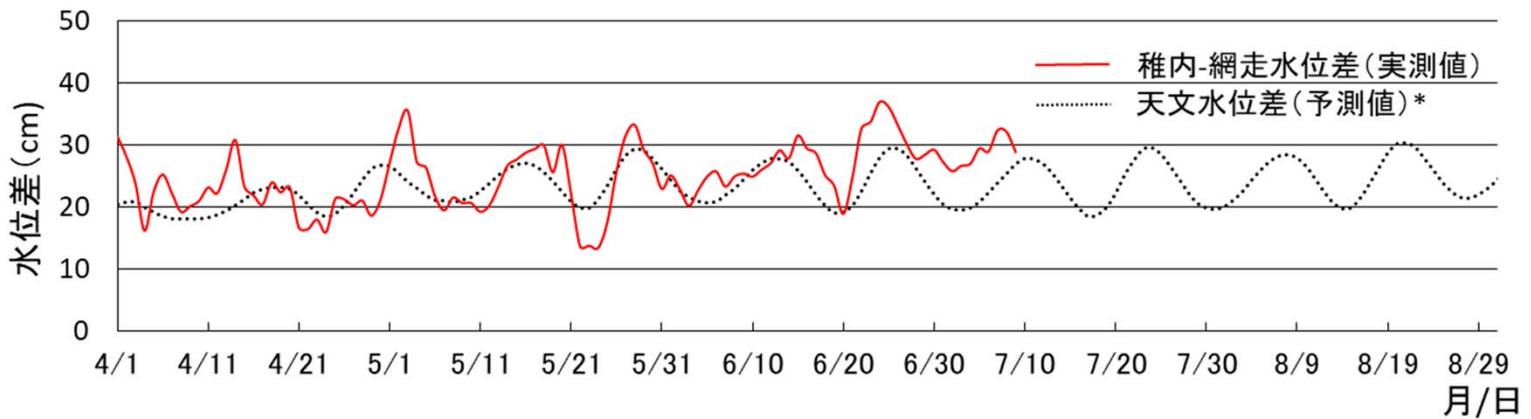


図1 R7(2025)年4/1-7/9の稚内と網走の水位差(宗谷暖流**の勢力)

*水位差の予測値は, 潮汐表として公開されている天文水位差から算出することができます。(実測値は気圧と風の影響を受けて変動します)

**宗谷暖流は日本海とオホーツク海の水位の落差が大きいほど強く流れることが分かっており, この落差は, 稚内と網走の水位差で代表できることが分かっています。

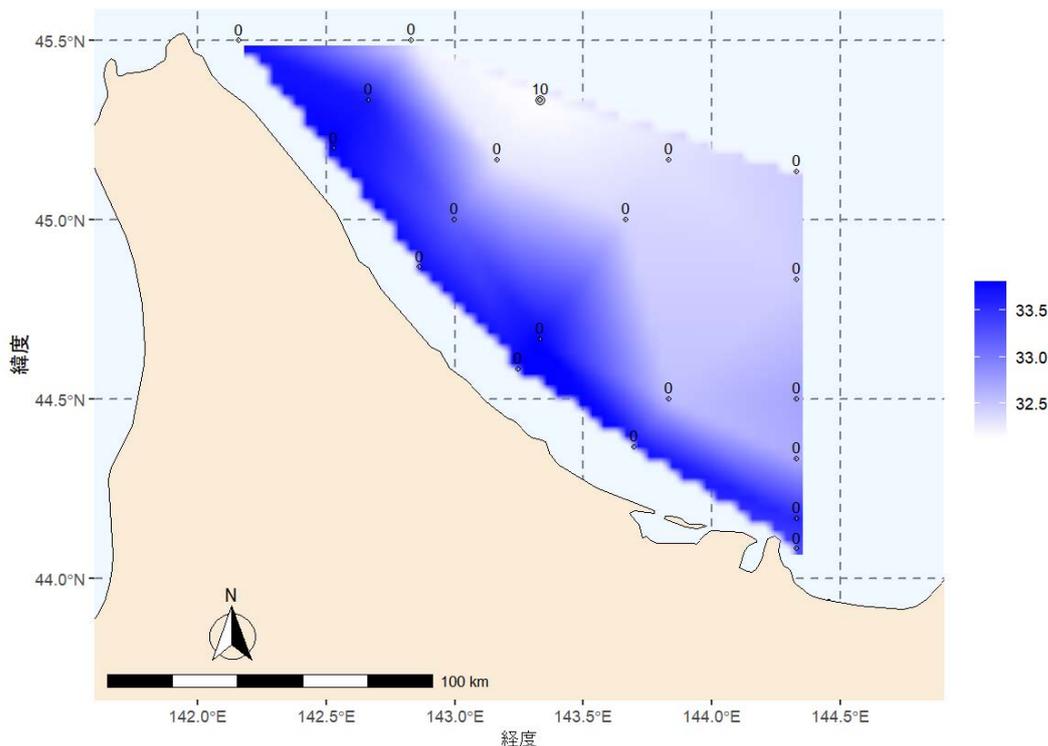


図1 R7(2025)年6/3-5の表面塩分(青コンター)とAt(灰丸・数字, 細胞/L)の分布
沿岸の高塩分帯は宗谷暖流, 稚内水試所属試験調査船北洋丸による調査結果

*本調査は水産資源調査・評価推進委託事業により実施しました。

オホーツク海貝毒プランクトン速報

(R7(2025)年6月下旬)

R7(2025)年6月27日

中央水産試験場資源管理部

(担当: 海洋環境G 宮園・品田)

●6月下旬現在, 宗谷暖流の勢力は例年並みですが(図1), 今後北寄りの風が続くと宗谷暖流は弱化する可能性があります。本年の6月上旬の広域分布調査では, 麻痺性貝毒プランクトンAtが沖合に最大10細胞/Lが確認され(図2), ほとんど出現していません。

●宗谷暖流の勢力については, 適宜「オホーツク海宗谷暖流情報」として発信予定です。

●次回の広域分布調査は7月下旬を予定しています。

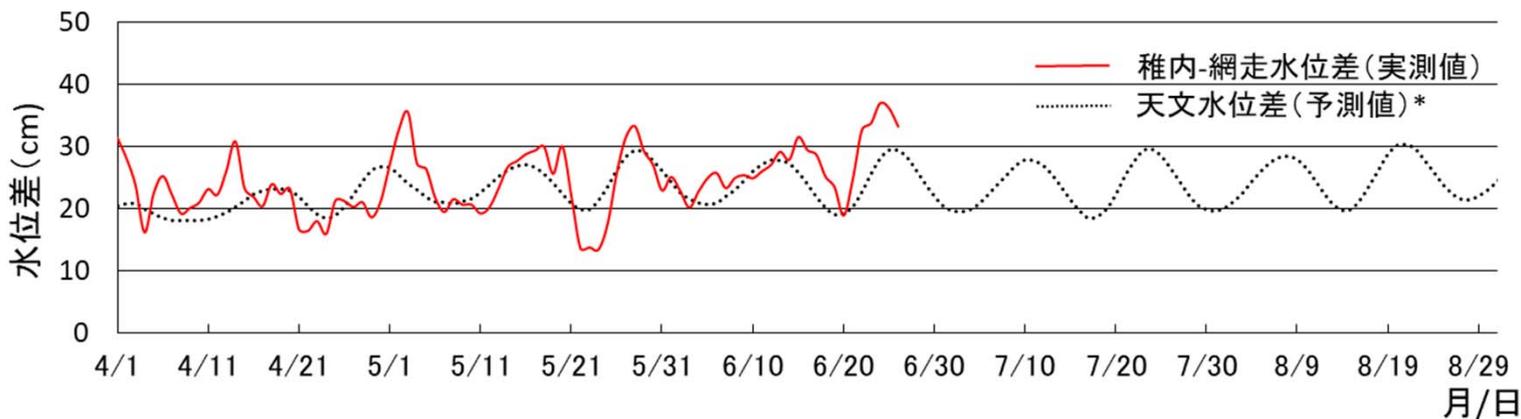


図1 R7(2027)年4/1-6/26の稚内と網走の水位差(宗谷暖流*の勢力)

*水位差の予測値は, 潮汐表として公開されている天文水位差から算出することができます。(実測値は気圧と風の影響を受けて変動します)

**宗谷暖流は日本海とオホーツク海の水位の落差が大きいほど強く流れることが分かっており, この落差は, 稚内と網走の水位差で代表できることが分かっています。

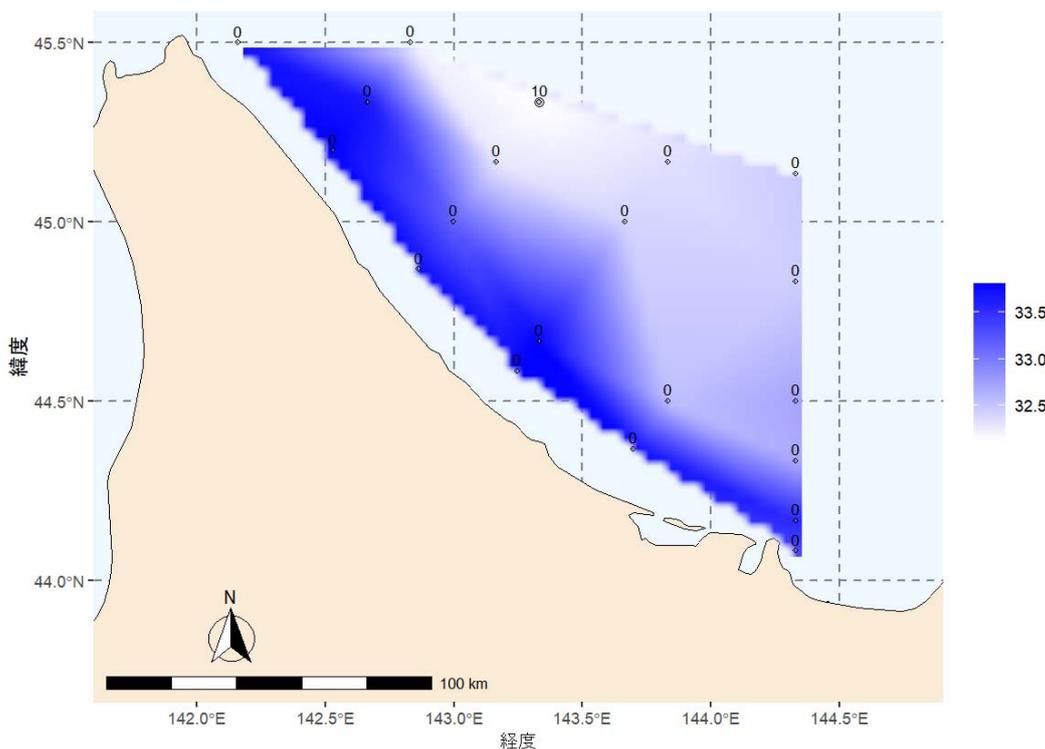


図1 R7(2025)年6/3-5の表面塩分(青コンター)とAt(灰丸・数字, 細胞/L)の分布
沿岸の高塩分帯は宗谷暖流, 稚内水試所属試験調査船北洋丸による調査結果

*本調査は水産資源調査・評価推進委託事業により実施しました。

オホーツク海貝毒プランクトン速報

(R7(2025)年6月上旬)

R7(2025)年6月12日

中央水産試験場資源管理部

(担当:海洋環境G 宮園・品田)

●6月3-5日にオホーツク海で行った麻痺性貝毒プランクトン(アレキサンドリウム・タマレンセ・スピーシーズ・コンプレックス(旧アレキサンドリウム・タマレンセ), 略称「Atsc」)の広域分布調査の結果を速報します。

●Atscは、22定点中1定点で出現し、最高出現密度は10(細胞/L)でした(図1)。**毒化の目安となる100細胞/Lを上回った地点はありませんでした。**

●6月上旬現在、稚内から網走の方向に沿岸を流れる宗谷暖流の勢力は**例年並み**です(図2)。しかしながら、宗谷暖流の勢力が弱まれば、Atが沿岸のホタテガイ漁場に流入して、麻痺性毒性値が上昇する可能性があります。宗谷暖流の勢力については、「オホーツク海宗谷暖流情報」として適宜お知らせする予定です。

●次回の広域分布調査は7月下旬を予定しています。

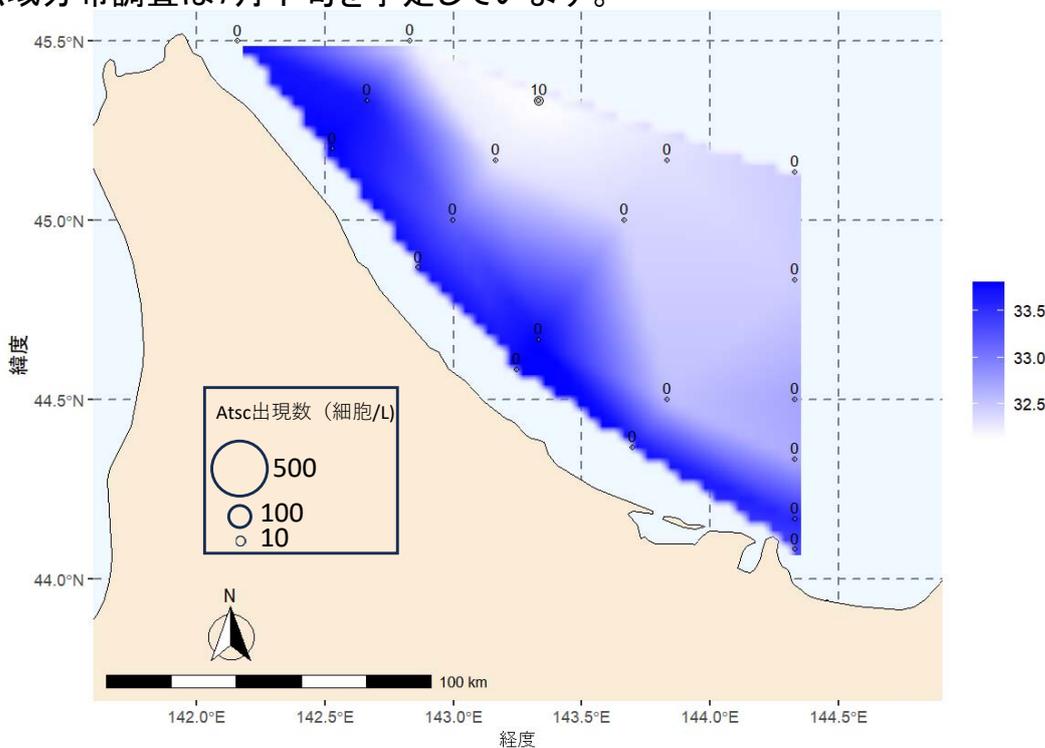


図1 R7(2025)年6/3-5の表面塩分(青コンター)と At(灰丸・数字, 細胞/L)の分布
沿岸の高塩分帯は宗谷暖流, 稚内水試所属試験調査船北洋丸による調査結果

*本調査は水産資源調査・評価推進委託事業により実施しました。

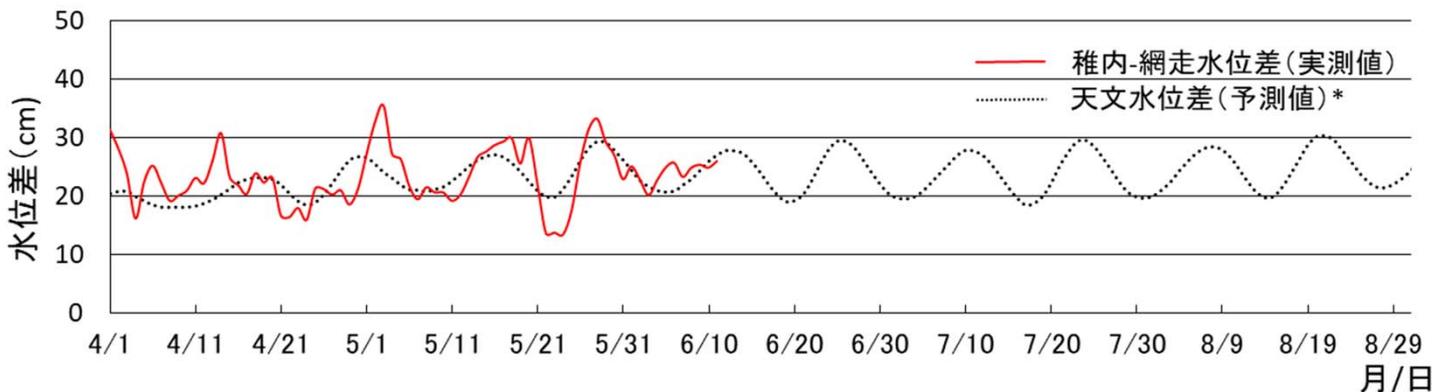


図2 R7(2025)年4/1-6/11の稚内と網走の水位差(宗谷暖流*の勢力)

*宗谷暖流は日本海とオホーツク海の水位の落差が大きいほど強く流れることが分かっており、この落差は、稚内と網走の水位差で代表できることが分かっています。